

平和、真実、日本？

奨励	ジョナサン・マッカーリー（じよなさん・まっかーリー）
奨励者紹介	学校法人アジア学院共同体生活コーディネーター 合同メソジスト教団宣教師

賢者は恥を受け、打ちのめされ、捕らえられる。
見よ、主の言葉を侮っていないが
どんな知恵を持っているというのか。
それゆえ、わたしは彼らの妻を他人に渡し
彼らの畑を征服する者に渡す。
身分の低い者から高い者に至るまで
皆、利をむさぼり
預言者から祭司に至るまで皆、欺く。
彼らは、おとめなるわが民の破滅を
手軽に治療して
平和がないのに「平和、平和」と言う。

（エレミヤ書 八章九——一節）

しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてください。わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。『わたしは去って行くが、また、あなたがたのところへ戻って来る』と言ったのをあなたがたは聞いた。わたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くのを喜んでくれるはずだ。父はわたしよりも偉大な方だからである。事が起こったときに、あなたがたが信じるようにと、今、その事の起こる前に話しておく。

（ヨハネによる福音書 一四章二六―二九節）

今、本当の平和はあるのか

今朝は、皆さんと共に、平和と真実について考えたいと思います。

今、日本に本当の平和があると思いますか。

今日のメッセージを準備するにあたり、マタイによる福音書五章の「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」というチャペル・アワーのテーマを参考にいたしました。のメッセージが、そのテーマを考えるきっかけになれば嬉しいです。本当の平和とは、また、平和を実現するとはどういうことかを考えてください。

今日は二つの聖書箇所を読みました。一つは旧約聖書エレミヤ書からとりました。エレミヤの話は、ユダヤ人の歴史のなかでも平和のない時代のことで、大変な話がたくさん出てきます。しかし、何よりも問題なのは、エレミヤもまた、神に対して憎しみの思いをもっていたということです。八章に、平和ではないのに「平和、平和」という人たちが出てきます。これはたとえて言うなら、「ひどく傷ついた人がいて、本当はとても深刻な傷なのに、その上からバンドエイドを貼ってそれで済まそうとしているとはどういうことか」とエレミヤが聞いているようなことです。はっきり言うと、「お前たちは偽善者だ」と言っているのです。この言葉は、二一世紀の現在の日本にも言えることでしょう。私はそうだと思います。

私はアジア学院という学校から来ましたが、アジア学院は、今回の大地震により大きな傷を受けた栃木県北部にあります。この三月十一日の震災の影響で色々と大変なことになっています。それなのに、一部の人たちはこの傷の上にバンドエイドを貼ろうとしています。政府官僚や多くの人たちは、放射線のことについて「もう日本は安全です。問題はなく、平和である」と言いたいわけです。また、関西では、東北に起こった震災は自分たちとあまり関係ないように感じることもあるのではないのでしょうか。放射性物質を調査したり、原子力発電の代替りのエネルギーを開発したりするのは大変なので、もっと簡単な何かで取り繕おうとしています。最近まで、日本は安全で平和な国であると思われていたでしょうが、現在の日本はどうでしょうか。本当に平和だと思いますか。こういう問題は、今回の地震があって初めて、日本が経験していることなのではないでしょうか。目に見えて、分かりやすくなっただけなのではないでしょうか。

アジア学院とイエス様の平和

アジア学院という学校は、日本という国の枠を越えて世界に視野を広げ、四十年近くもの間、こうした問題と闘っています。毎年三十人のリーダーを通して、このような、人間が作りだしている様々な問題の解決を求めています。今年は特に、そのようなリーダーはアジアやアフリカだけではなく、日本にも必要だという気がしました。日本にいる人びとは、アフリカやアジアから来てくれている学生から、本当のリーダーシップを学べるのではないかと考えています。

問題を解決するために、アジア学院が教える最初の一步は、「問題がある」と認識することです。この旧約聖書のエレミヤが言うように、破滅を「手軽に治療する」のは良くない。本当の癒しがくるように、平和がくるように何か行動しよう、とイエス様も同様に、ヨハネによる福音書で話しています。

ヨハネによる福音書は、エレミヤの何百年もあとの話になりますし、話を聞いている人たちも違います。でもエレミヤの時代と同じで「平和はなかった」のです。ヨハネによる福音書の時代にはローマ王国がユダヤ人を支配していて、またイエス様の民族（ユダヤ人たち）は救いと本当の平和を求めていました。しかしイエス様は、エレミヤの時代のリーダーたちと違って、破滅を手軽に治療するのではなく、本当の平和を与えることにしました。

イエス様の言う平和、そして今日私が言っている本当の平和とは、どういうことでしょう。破滅するときがくると気づいて、癒しのための働きをすることが本当の平和につながります。イエス様の平和は、信じているものの中に深く入って、破滅という問題に向き合う力を与える平和です。問題を見る力だけではなく、その解決のために働く力にもなります。

ヨハネによる福音書に書いてあるイエス様の平和は、二〇〇〇年前でも今でも、私たちが経験できる本当の平和だと私は信じています。自分の中に、自分の力で闘えない問題があると認めると、自分以外の力が必要となるということも分かります。そこに本当の平和がきます。私の力ではこの問題はどうにもならないけれど、イエス様の力で解決できると分かれれば、本当の平和が心に残ります。また今日の聖書箇所にも、聖霊の話が出てきますが、私たちを手伝ってくれる神様の聖霊は、私たちに永遠の平和の実感を与えます。その平和、その聖霊の力を通して、私たちはそこに立って問題の解決を求めることができます。

イエス様の教えである本当の平和は、アジア学院の土台でもあります。その平和を通して、私たちは四十年もの間、世界にある色々な問題と闘ってきました。アジア学院は、公正かつ平和で健全な環境をもつ世界を構築するために、この聖霊、言い換えれば、この本当の平和の力をもって活動を行っているとは思っています。

日本のための本当の癒し

今の日本にも、アジア学院がもっているような教えや使命が必要だと思いませんか。問題を無視するのではなく、気づいて、解決するために働くことです。私の経験から見ると三月十一日の大地震は、日本にとって目覚まし時計のようだと思います。日本は、周りの国と同じように、自分の力だけでは今の問題を解決することはできません。原発のことをはじめ社会的な問題を解決するためにも、他の力が必要ではないのでしょうか。日本では、アメリカと違って、危険な原子爆弾ではなく、平和のために原子力発電所を作ろうとしました。しかし、今の福島はどうでしょうか。

今日の御言葉、また私の話を通して本当の平和を学んでほしいと思っています。「平和がない」ときに「平和がある」というのではなく、「平和がない」という現実を認めることから始めて、平和の癒しが来るように立ち上がって行動しましょう。そして、すぐに疲れてあきらめてしまうような自分の力だけではなく、神様の見えざる力を感じ、イエス様を信頼して行動することです。聖霊の力をいただいて本当の神の平和を経験すると、心にも、体にも、魂にも平和が留まります。それで本当にひどい状況のときや、理解できないことがあっても、神様の力があなたの中に働いていると知ると、あなたは立ち上がってその問題に向き合うことができます。そのときには、あなたは心を騒がせることもなく、また怖がることもありません。それが本当の平和、日本のための本当の癒しです。皆さんと折り合いしたいと思います。